

(2) 高齢者関係給付費は引き続き増加

社会保障給付費のうち、高齢者関係給付費（国立社会保障・人口問題研究所の定義において、年金保険給付費、老人保健（医療分）給付費、老人福祉サービス給付費及び高年齢雇用継続給付費を合わせた額）についてみると、平成19（2007）年度は63兆5,654億円、社会保障給付費に占める割合は69.5%となっており、前年度の69.8%から0.3ポイント減少した。

5 高齢化の国際的動向

(1) 今後半世紀で世界の高齢化は急速に進展

2005（平成17）年の世界の総人口は65億1,227万人であり、2050（62）年には91億4,998万人になると見込まれている。

総人口に占める65歳以上の者の割合（高齢化率）は、1950（昭和25）年の5.2%から2005（平成17）年には7.3%に上昇しているが、さらに2050（62）年には16.2%にまで上昇するものと見込まれており、今後半世紀で高齢化が急速に進展することになる（表1－1－12）。

(2) 我が国は世界のどの国も経験したことのない高齢社会を迎える

先進諸国の高齢化率を比較してみると、我が国は1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位であったが、2005年には最も高い水準となり、世界のどの国もこれまで経験したことのない高齢社会を迎える。

また、高齢化の速度について、高齢化率が7%を超えてからその倍の14%に達するまでの所要年数（倍化年数）によって比較すると、フランスが115年、スウェーデンが85年、比較的短いドイツが40年、イギリスが47年であるに対し、我が国は、1970（昭和45）年に7%を超えると、その24年後の1994（平成6）年には14%に達している。このように、我が国の高齢化は、世界に例をみない速度で進行している。

アジア諸国についてみると、今後、急速に高齢化が進み、特に韓国においては、我が国を上回るスピードで高齢化が進行し、2005（平成17）年に9.3%であったものが2050年には34.2%にまで達すると見込まれている。

地域別に高齢化率の今後の推移をみると、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、開発途上地域においても、高齢化が急速に進展すると見込まれている（図1－1－13）。

表1－1－12 世界人口の動向等

	1950年（昭和25年）	2005年（平成17年）	2050年（平成62年）
総人口	2,529,346 千人	6,512,276 千人	9,149,984 千人
65歳以上人口	130,543 千人	472,589 千人	1,486,861 千人
先進地域	63,927 千人	186,347 千人	334,153 千人
開発途上地域	66,616 千人	286,242 千人	1,152,708 千人
65歳以上人口比率	5.2 %	7.3 %	16.2 %
先進地域	7.9 %	15.3 %	26.2 %
開発途上地域	3.9 %	5.4 %	14.6 %
平均寿命（男性）	45.2 年	64.2 年	73.3 年
同（女性）	48.0 年	68.6 年	77.9 年
合計特殊出生率	5.0	2.7	2.0

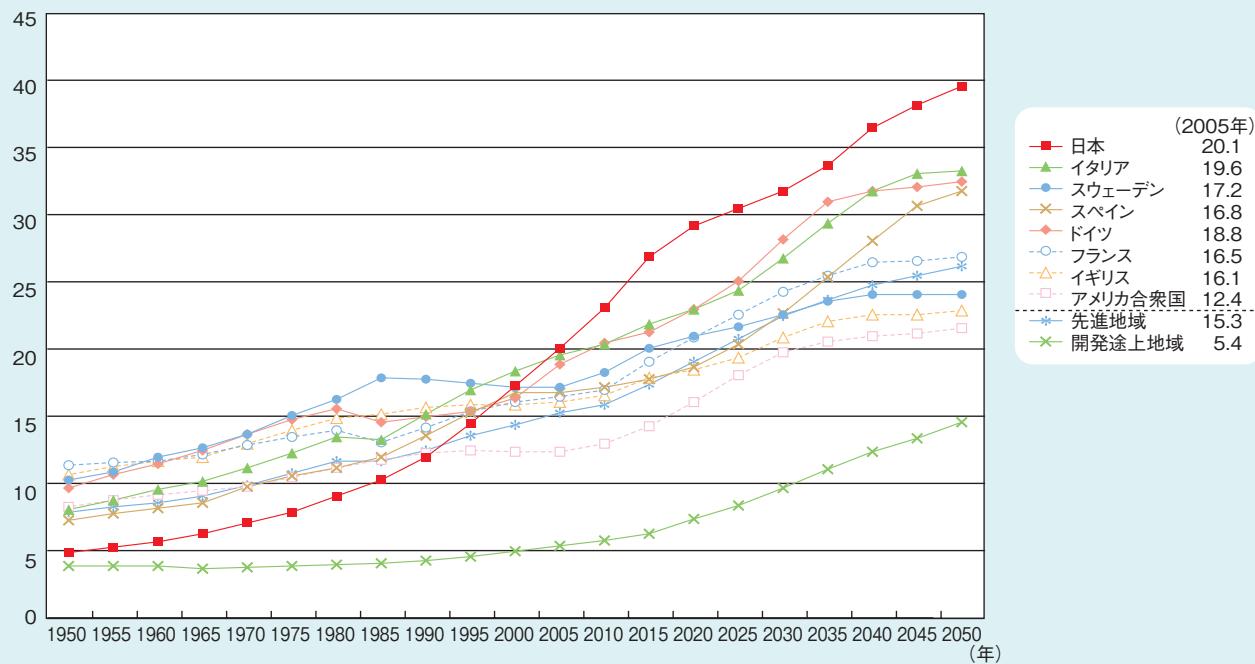
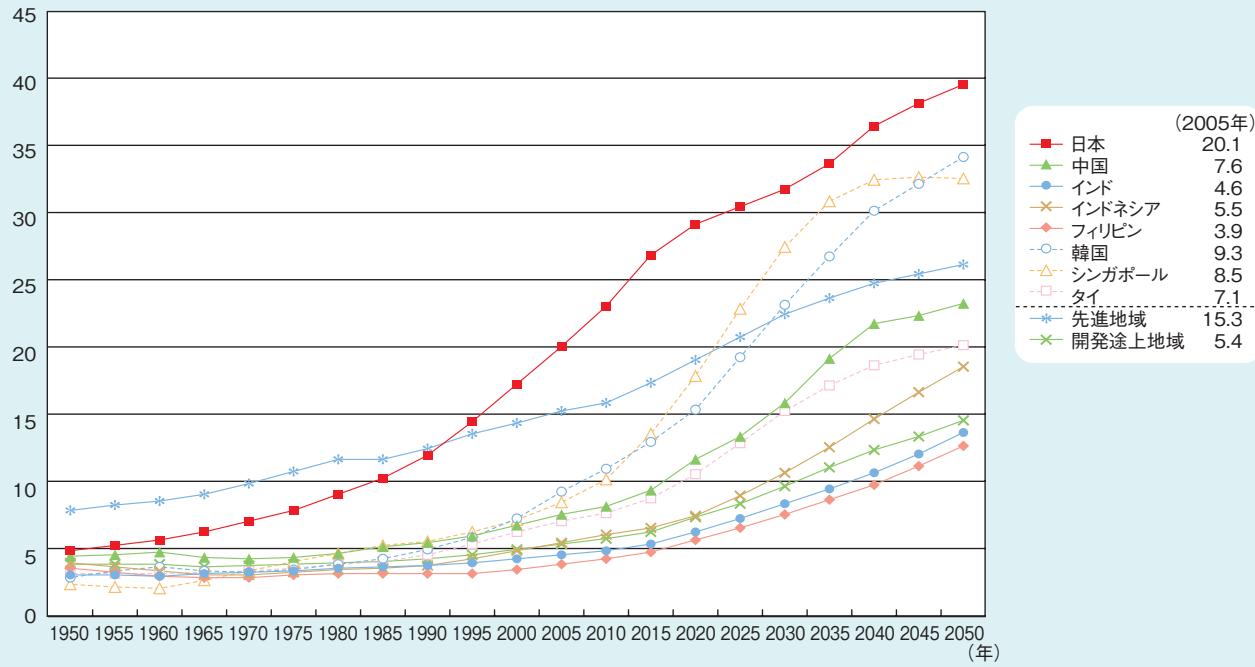
資料：UN, *World Population Prospects: The 2008 Revision*

（注1）平均寿命及び合計特殊出生率は、1950－1955年、2000－2005年、2045－2050年

（注2）先進地域とは、ヨーロッパ、北部アメリカ、日本、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

図1-1-13 世界の高齢化率の推移

1. 欧米
(%)2. アジア
(%)

資料：UN, World Population Prospects: The 2008 Revision

ただし日本は、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

(注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。